

ふじみさらだボール子育て情報

「自然の営みを大切に」

令和3年11月10日号

板橋富士見幼稚園



遊びの世界は社会と自然との共生

子どもの成長には、欠かすことのできない2つの環境があります。一つは、家庭を中心とした「社会環境」、そしてもう一つは「自然環境」です。

社会環境は人や文化によって変化していきます。特に文化的な営みは、健全な社会に参加する大切な場であることは言うまでもありません。この文化的営みは、人から人への伝承が基本とされています。つまり興味やブームが過ぎ去ると消えてなくなってしまうものがあったり、その時々で新たな文化が生まれたりもします。実はこの変化する社会環境の中で、子ども達も、人から人への文化的遊びや習慣を繋いでいるのです。



時代の変化と共に生活習慣や遊び、デジタル機器も変化してきました。加えて少子化や核家族化などの影響で、子ども同士の繋がりが少なくなったり、生活の多様化により繋がる遊びが減ったりもしています。そのような状況の中で、メディアの情報が共通の遊びとなり、遊びの質が小さくなって、一つの遊びを経験すると、その遊びをずっと続けている傾向が見られます。こうした経験は確かに子ども同士を繋ぎ遊びが継続しますが、質的に見ると時には停滞していることもあります。

これに反して自然環境は、四季を繰り返す、人と自然を繋ぎ共生させることのできる普遍的な出会いの場でもあります。社会環境とどのような点が異なるのかといえば、単純に自分の思い通りにはならないということだと思います。自然が自分に近づいてくることはありません。好奇心や関心を抱き、妥協したり協調した時に、自然環境が自分のところに届きます。この相手に寄り添う関係性は、人間の豊かな心の育ちに、大きく影響します。

子どもの成長発達には、こうした2つの環境を介しながら、知的な側面を学習していくことが大切です。少子化の中で、決まりや約束などの価値観もその時代に合わせて変化し、子ども達はこうした変化の中で成長していきます。自然環境を身近に、自己調節(加減する力)をたくさん身に付けさせてあげたいものです。